

石牟礼道子作 新作能舞 (15分)

祈るべき天と思えど天の病む

三句に凝縮された石牟礼道子の世界を
能管・琵琶の演奏とともに能役者浅井文義が謡と舞で解き放つ。

「祈るべき天と思えど天の病む」
「毒死列島 身悶えしつつ 野辺の花」
「さくらさくら わが不知火はひかり風」

石牟礼道子作 音楽詩劇 (90分)

緑亜紀の蝶

— 自分にきかせる童話

最初にひらいた花は 海の上の蝶々じやなあ

与那国ぬ情 遺言葉ど情 生命ぬある間や 問合いしやびら

ああこれは、この世でたつたひとつでもよい、いのちのある間に、どうしても
ききたいものだと思うておった、うたというものではあるまいか

いのちは生まれ、死に、再び生まれる 祝言と鎮魂の連鎖

作曲・シンセサイザー

出演

新井 純

坪井 美香

明石 智水

N i m a 岳晶

佐藤 瞬山

設楽 以子

富田 真子

岩佐 鶴丈

構成・演出 笠井 賢一

能舞

浅井 文義

吹き物

設楽 瞬山

琵琶

岩佐 鶴丈

石牟礼道子新作能『不知火』を2002年笠井が演出、さらに2008年7月国立能楽堂での「アトリエ花習」旗揚げ公演『言葉の力 詩・歌・舞 石牟礼道子・多田富雄 深き魂の交歓』以来、石牟礼道子・多田富雄作品を上演しつづけている。

2026年 水俣病公式確認70年

2月28日(土) 17時・3月1日(日) 14時 鍊仙会能楽研修所

石牟礼道子作の新作能舞『祈るべき天と思えど天の病む』

音楽詩劇『緑亜紀の蝶』の上演

詳細は表面

3月11日(水) 14時〜17時 アルカディア市ヶ谷私学会館 富士の間

『言霊の舟 白川静・石牟礼道子往復書簡』出版記念会

新作能『不知火』を次世代につなぐ 実演と講演

実演 謡 梅若 紀彰
小鼓 大倉源次郎

7月31日(金) 12時 会場未定

『山百合忌』 鶴見和子没後20年追悼会

出演 金子 あい
坪井 美香
笠井 賢一
音楽 設楽 瞬山
佐藤 岳晶

2027年 石牟礼道子生誕100年・多田富雄没後17年

3月11日(木) 18時 宝生能楽堂

石牟礼道子作

新作狂言『なごりが原』・新作能『不知火』

シテ 不知火 梅若 紀彰
ツレ 常若 観世 淳夫

3月27日(土) 13時 京都コンサートホール 大ホール

シンポジウムと能

多田富雄作新作能『二石仙人―アインシュタインの能』

シテ 片山九郎衛門
パイプオルガン曲―作曲 佐藤 岳晶



石牟礼道子

1927年、熊本県天草に生まれ、水俣で育つ。詩人・作家。1969年の『苦海浄土わが水俣病』は、水俣病事件を描いた初の作品として注目され、第一回大宅壮一ノンフィクション賞に選ばれたが、「いまなお苦しんでいる患者のことを考えるともう気がない」と辞退。1973年マグサイサイ賞、1993年「十六夜橋」で紫式部文学賞、2001年度朝日賞を受賞。『はにかみの国―石牟礼道子全詩集』で2002年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。2002年、03年、04年と「新作能『不知火』」演出笠井賢二が、東京・熊本・水俣で上演され、高い評価を受ける。『石牟礼道子全集 不知火』が藤原書店から刊行される。その後も著書の刊行が続き、天草島原事件を描いた畢生の大作『完本 春の城』を刊行。2018年9月10日逝去。

生まれ育った豊饒な海や山との深い交歓のもたらす魂の輝きと、現代の汚毒に倒れた受苦の人々の声なき声を、一身に引き受けて書かれた石牟礼作品は、この後いよいよ重要さを増し、それらを読み解くことで、終末の相を呈している世界の再生の可能性が指し示されるであろう。

『祈るべき天と思えど天の病む』
『緑亜紀の蝶』

2026年

2月28日(土) 17時 (30分前開場)

3月1日(日) 14時 (30分前開場)

○入場料 6,000円(税込)
(全席座椅子付・自由席)

○会場 鍊仙会能楽研修所

〒107-0062 東京都港区南青山
4-21-29 電話 03-3440-1228
【交通】銀座線・千代田線・半蔵門線
表参道駅 A4出口より徒歩3分

○お申込みフォーム↓

アトリエ花習
TEL 090-6976-3798
メール mail@atelierkashu.com

